

平成29年度（平成28年度対象）

教育委員会の点検・評価

平成29年8月

洞爺湖町教育委員会

も く じ

I	はじめに	1～2
	1. 点検及び評価とは	
	2. 洞爺湖町教育委員会の点検及び評価	
	(1) 評価の流れ	
	(2) 評価の対象	
	(3) 事務事業における評価者	
	(4) 評価シートの作成	
	(5) 達成度評価基準	
	(6) 行政評価委員による意見・提言	
	3. 教育行政評価の公表	
II	教育委員会の活動状況	3～6
	1. 教育委員会議の開催状況	
	2. 委員の活動状況	
III	事務事業評価及び評価及び評価委員の意見・提言	7～30
IV	資料 (別添)	
	1. 平成28年度教育行政執行方針	
	2. 平成28年度各種事務事業の実績等	

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（以下「改正法」という。）が、平成20年4月1日から施行されました。この改正法では、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」が教育委員会に義務付けられています。

1 点検及び評価とは

教育行政の点検及び評価とは、洞爺湖町教育委員会が行っている行政活動（施策・事業）をどのような成果を上げたのかという観点から点検・評価し、その結果を改革・見直しに結びつけ、行政運営の質の向上を図るものです。また、住民にわかりやすく説明することによって、行政活動の透明性を高めるための経営手法でもあります。

（1）点検及び評価の目的

点検及び評価の目的は、

- ①政策や行政活動（施策・事業）の質を向上させること。
- ②行政の説明責任を果たすこと。
- ③教育行政に対する町民満足度を高めることです。

2 洞爺湖町教育委員会の点検及び評価

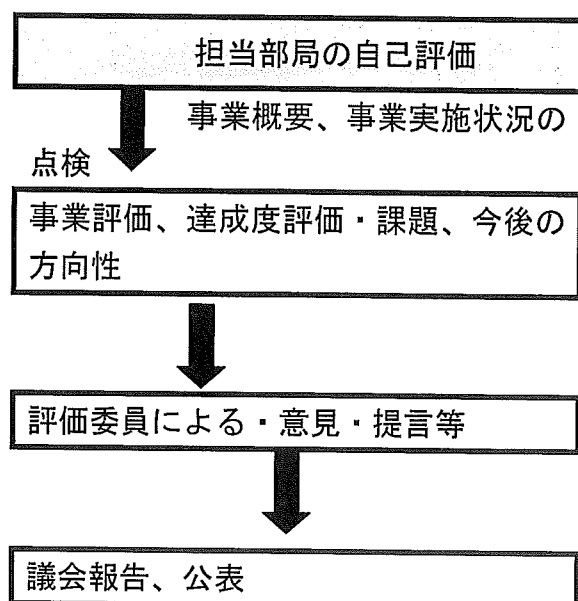
教育行政の点検及び評価をまとめて、「行政評価」とします。

（1）評価の流れ

教育委員会による自己評価に外部の視点から評価委員の意見を組み込むことにより、行政評価の客観性や改革・見直しの実効性を高めていきます。

各担当部局では、全事務事業を対象に、所定の評価シートを用いて「自己評価」を行います。

その後、評価委員が各事務事業に対する意見・提言等を示します。



(2) 評価の対象とする事務事業

前年度の「教育行政執行方針」に明記された事務事業の主なものを評価対象とします。

なお、個々の事業をまとめた「主要施策」ごとに評価シートを作成し、評価事務の簡略化及び明確化を図ります。

※ 教育行政執行方針の括りを「推進項目」…大項目、「主要施策」…中項目、「事務事業」…小項目に分類します

(3) 事務事業における評価者

事務事業評価は、担当部局が評価者となり、評価シートは所管課が作成します。

(4) 評価シートの作成

- ①「主要施策」に括られた「事務事業」の概要を記載
- ②上記事務事業の実施状況を簡潔に記載
- ③事務事業ごとの決算額を記載（過去2ヵ年）
- ④担当部局の「評価」を事務事業ごとに簡潔に記載
- ⑤「達成度」について、下記の基準により評価し、簡潔な説明を記載
- ⑥「課題と対応方向」について、具体的に記載

(5) 達成度評価基準

評価対象事務事業について、事業の達成度についてA～Dの4段階で評価します。

評価	事業達成状況	
A	予定事業の実施状況について	概ね達成できた
B		一部に未実施があったが、達成度は比較的高い
C		未実施のものが多く、達成度が低い
D		ほとんど実施できなかった

(6) 行政評価委員による意見・提言

担当部局が作成した「主要施策」ごとの評価シートを行政評価委員に提示・説明し、施策・事業への意見・提言を求める。

3 教育行政評価の公表

行政評価委員の意見・提言等を記載した評価報告書を町議会に提出し、町ホームページ等で公表します。

＜報告書内容＞

- ①教育委員会活動報告
- ②事務事業評価シート
- ③教育行政執行方針（参考）

II 教育委員会の活動状況

1. 教育委員会議開催状況

平成28年 5月18日 委員会協議会

平成28年第2回臨時会 6月14日

番 号	案 件
指名第 1 号	洞爺湖町教育委員会教育長職代理者の指名について

平成28年第3回定例会 7月22日

番 号	案 件
報告第 8 号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会平成28年6月会議提出補正予算について)
報告第 9 号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第10号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第11号	洞爺湖町学校給食運営委員会(虻田・洞爺)委員の委嘱について
報告第12号	平成27年度洞爺湖町学校給食会計決算について
議案第25号	第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン策定委員会設置要綱の制定について
議案第26号	評価結果に対する苦情の申し出及びその取扱いについての全部改正について
議案第27号	洞爺湖町教育委員会会議規則の一部改正について
議案第28号	修学旅行の引率業務等に従事する町立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部改正について

○協議会

平成28年第4回定例会 10月13日

番 号	案 件
報告第13号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会平成28年9月会議提出補正予算について(一般会計補正第4号))
報告第14号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会平成28年9月会議提出補正予算について(一般会計補正第5号))
報告第15号	臨時代理の報告について(洞爺湖町表彰条例に基づく被表彰者の内申及び決定)
報告第16号	平成28年度全国学力・学習状況調査の結果概要について
報告第17号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第18号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について

○協議会

平成28年第3回臨時会 10月21日

番 号	案 件
議案第29号	洞爺湖温泉小学校児童保護者からの要望書への対応について

平成28年第4回臨時会 12月28日

番 号	案 件
報告第19号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会平成28年度12月会議提出補正予算について(一般会計第6号))
報告第20号	平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果概要について
報告第21号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第22号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第30号	平成28年度(平成27年度対象)教育委員会の点検・評価について

平成29年第1回定例会 1月20日

番 号	案 件
報告第1号	洞爺湖町教育委員会部局の人事異動について
報告第2号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第3号	平成29年度当初予算要望概要について
議案第1号	洞爺湖町立学校管理規則の一部改正について
協議第1号	学校訪問の総括について

○協議会

平成29年第1回臨時会 2月17日

番 号	案 件
報告第4号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第2号	洞爺湖町立学校管理規則の一部改正について
議案第3号	洞爺湖町招致外国青年任用規則の一部改正について
議案第4号	平成29年度洞爺湖町一般会計補正予算(民生費、教育費関係)について
議案第5号	平成29年度教育行政執行方針について
議案第6号	第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの策定について

○協議会

平成29年第2回定例会 3月24日

番 号	案 件
報告第 5 号	臨時代理の報告について(洞爺湖町議会平成29年3月会議議会提出補正予算について(一般会計第8号))について
報告第 6 号	平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果概要について
報告第 7 号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第 7 号	洞爺湖町教育委員会部局の人事異動について
議案第 8 号	洞爺湖町立学校教職員の人事異動について
議案第 9 号	さくら保育所の休止について
議案第10号	洞爺湖町立学校運営協議会規則の制定について
議案第11号	洞爺湖町人づくり育成事業実施要綱の制定について
議案第12号	洞爺湖町通学路安全推進会議設置規程の制定について
議案第13号	洞爺湖町立学校管理規則の一部改正について
議案第14号	洞爺湖町教育委員会行政組織規則の一部改正について
議案第15号	洞爺湖町教育委員会職員の職名に関する規則の一部改正について
議案第16号	洞爺湖町教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部改正について
議案第17号	洞爺湖町教育委員会事務専決規程の一部改正について
議案第18号	洞爺湖町教育委員会職員懲戒審査委員会設置規程の一部改正について
議案第19号	洞爺湖町就学援助費の支給に関する要綱の一部改正について
議案第20号	洞爺湖町学校給食センター条例施行規則の一部改正について
議案第21号	修学旅行の引率業務等に従事する町立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部改正について
議案第22号	洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校地域連携施設の利用に関する要綱の一部改正について
議案第23号	特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担に関する条例施行規則の一部改正について
議案第24号	洞爺湖町放課後児童クラブ「児童会風っ子」運営規定等の一部改正について

2. 委員の活動について

4月 4日	教職員辞令交付式
4月 7日・8日	小・中学校・虻田高等学校入学式
4月26日	四者合同歓迎会
5月15日	洞爺湖マラソン大会
5月17日	網嶋教育長退任式
5月25日	管内教育委員会連絡協議会総会（室蘭市）
6月14日	遠藤教育長就任
7月 7日	北海道市町村教育委員研修会（札幌市）
7月29日	フレンドリーツアー三豊市小学生歓迎式
8月 1日	姉妹都市箱根町親善訪問使節団歓迎式
11月 1日	学校訪問（とうや小学校・洞爺中学校）
11月 3日	洞爺湖町表彰式
11月 8日	学校訪問（虻田小学校・洞爺湖温泉小学校）
11月14日	学校訪問（虻田中学校・虻田高等学校）
1月 8日	洞爺湖町成人式
1月15日・16日	胆振管内教育委員研修会
3月 1日	虻田高等学校卒業式
3月12日	洞爺中学校卒業式
3月14日	虻田中学校卒業式
3月17日	虻田小学校・洞爺湖温泉小学校・とうや小学校卒業式

事務事業評価

及び評価委員の意見・提言

行政評価委員総括意見

平成28年度の教育行政執行方針に基づき実施した事業を28区分の主要施策に分け、主な事務事業について、各担当課の自己評価をもとに、第三者の立場から意見・助言を申し上げました。

評価対象の各種事務事業について、全体をとおして概ね予定どおり実施されており、検証も進められ、新たな事業に取り組まれるなど、前向きに事業を展開し達成度も高いと感じます。

この度の評価をとおして、特に次の3点について申し上げます。

1点目は、虻田高校の入学者が減少傾向にあることや特定部活動の部員減少などを踏まえ、同校への支援のあり方を早急に検討していただきたいと思います。

2点目は、社会教育において、青年・成人、各種社会教育団体やスポーツ振興などに関わり、ここ数年、人材育成の必要性が対応方向として出されており、新規事業を新たに起こすなどの取組をされていますが、更なる対応の検討が必要と考えます。

3点目は、町内の図書施設について、利用者数の減少が続いていることから、利用状況を分析のうえ活用の向上や施設の在り方を検討する必要があると考えます。

これら3点について、特に留意を頂きながら今後、取組を進めていただきたいと思います。

●洞爺湖町教育委員会行政評価委員

区 分	氏 名	摘 要
委員長	加藤 訓	虻田地区
委 員	永井 信久	洞爺湖温泉地区
委 員	村上 正弘	洞爺地区

平成29年度(平成28年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	教育行政の推進				
主要施策	第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの策定				
取り組みの概要 (事務事業)	・第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの策定 (計画期間:平成29年度～平成38年度)				
実施状況	・第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン策定委員会を立ち上げ、策定に向けた検討を重ね平成29年2月に成案を得た。 策定委員会開催 5回(委員数 12名) アンケート調査の実施(期間:平成28年8月5日～19日) 調査対象者 757名(住民基本台帳に登録されている18歳以下の子どもをもつ世帯・保護者、小中学校の教職員、町内私立幼稚園教職員、社会教育団体等の役員) 回収率 35.3% パブリックコメントの実施(期間:平成29年1月11日～2月10日)				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン策定事業(委員謝礼等)	0	201	0	0
評価	・策定委員会の立ち上げが8月上旬と遅くなったが、精力的に検討を進め、成案を得た。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	・第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンの着実な実行を図る必要がある。				
評価委員の意見・提言	計画の着実な実行を期待する。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課			
推進項目	Ⅰ 幼児期の保育及び教育の推進					
主要施策	ア 子育て支援の充実					
取り組みの概要 (事務事業)	・一時預かり事業 ・町内私立幼稚園への制度に基づく支援					
実施状況	・一時預かり事業については、平成26年度に子育て支援センターで試行し、平成27年度から常設保育所で本格実施。虻田地区は本町保育所、洞爺湖温泉地区は桜ヶ丘保育所、洞爺地区は洞爺保育所で実施。(各保育所定員1日2名) ※実績 本町保育所 231 名、桜ヶ丘保育所 116 名、洞爺保育所 63 名 計 410 名 ・町内私立幼稚園が、子ども・子育て支援法に基づく施設型給付施設へ移行したことにより、制度の趣旨を踏まえた給付費の支援を実施。(3/1 現在児童数 45 名、うち洞爺湖町在住児童 36 名)					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(28年度)	
			27年度	28年度	国・道	その他
	常設保育所運営事業(一時預かり事業)		5,778	6,236	2,946	737
	私立幼稚園施設型給付費事業		0	17,456	11,835	0
評価	・一時預かり事業については、3地域でそれぞれ実施され、利用者数も増加傾向にあり、地域の子育て支援のサポートができた。 ・町内私立幼稚園が、新制度による施設型給付施設へ移行したことに伴い、当該施設と連携を図り、適切に給付を実施することができた。					
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。			
課題と対応方向	・一時預かり事業については、利用者が増加傾向にあるが、現行の体制においては、利用者数を1日2名の定員を維持せざるを得ない状況である。 ・私立幼稚園施設型給付費事業は、大きな問題もなく実施することができた。					
評価委員の意見・提言	一時預かり事業において、受入体制により利用者数を1日2名の定員を維持せざるを得ない状況ではあるが、利用者の希望通り利用されており、概ね順調に運営されている。 今後において、安定的な利用ができるよう取組んでいただきたい。					

平成29年度(平成28年度実施)

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅰ 幼児期の保育及び教育の推進				
主要施策	イ 保育所の運営充実				
取り組みの概要 (事務事業)	幼・保・小連携の充実の活動推進				
実施状況	・小学校参観日等に所長若しくは保育士の参加により、学校での就学した児童の様子の見学を実施するとともに、意見交換を行った。 ・3月には保育所児童要録(小学校就学児対象)を個別に作成し、持参による提出で各小学校へ引継ぎを行い連携を図っている。 ・幼稚園とは幼稚園で行われたイベントに年長児が参加し交流を図った。 ・就学前児童の教育・保育の連携では、保育士及び幼稚園教諭の合同研修会を行った。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	保育の質の向上のための研修事業	53	92	46	0
評価	・小学校行事への保育士等の参加で就学後の児童の様子を把握するなど、保育所・学校相互の連携が図られた。 ・児童要録は教育にかかわる視点で「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の項目で構成されており、具体目標に沿った児童の状況を記載している。小学校教員と直接引継ぎを行っているほか、学校側からの保育所への期待など確認し保育に取り入れている。 ・就学前児童の教育・保育の連携では、保育士及び幼稚園教諭の合同研修会を行い、資質の向上を図った。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	・今後も学校・幼稚園・保育所、教員・幼稚園教諭・保育士相互の交流を通じ、就学に向けて必要な連携を図っていく必要がある。 ・児童要録はより具体的に記載することにより、児童の状況をより具体的に引継ぎを行うことができる。記載の表現など研修を重ねていくことが必要である。 ・今後においては保健師および小学校との連携により、支援を要する児童も含めたスムーズな就学に向けた取り組みを、一層進める必要がある。				
評価委員の意見・提言	児童が幼稚園、保育所からスムーズに小学校生活に入れるよう、家庭教育の大切さを踏まえ、家庭を含めた幼・保・小連携に努めていただきたい。				

平成29年度(平成28年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	I 幼児期の保育及び教育の推進				
主要施策	ウ 子育て支援センター事業の推進				
取り組みの概要 (事務事業)	・子育て支援体制の連携				
実施状況	・子育てセミナーは栄養士、保健師と連携のもと、事業を実施。 ・社会教育事業のブックスタートに同行し、幼児期の読み聞かせの大切さなど周知。 ・各保育所で月1回の保育所開放を実施し、保育所との連携を図っている。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	子育て支援センター運営事業	2,580	4,920	3,295	0
評価	・子育て支援センターでは、子育て支援に関するアンケートを実施しており、各種事業は概ね好評を得ており、子育てセミナーは参加者の意向を踏まえ、毎回募集型で実施し参加しやすい環境づくりに努めた。 ・保育所開放は各保育所月1回実施し定着している。(利用延べ人数 保護者 417 名、乳幼児 522 名)				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	・毎年実施している子育て支援に関するアンケートを踏まえて、より親しみのある事業内容の実施に向け、引き続き検討をする必要がある。 ・保育所開放は定着しているので継続して行っていく必要がある。 ・父親も参加しやすい事業を検討していく。				
評価委員の意見・提言	子育てセミナーについて、回を重ねるごとに良くなっている。引続き事業の充実に努めていただきたい。				

平成29年度(平成28年度実施)

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

		担当課	管理課			
推進項目	Ⅰ 幼児期の保育及び教育の推進					
主要施策	エ 保育施設の整備					
取り組みの概要 (事務事業)	・洞爺保育所の改築の検討					
実施状況	・平成28年3月をもって閉校した洞爺高校の跡地利用については、「仮称 洞爺高校メモリアル公園」として活用、公園内には洞爺保育所の建設も併せて提言された。 ・平成27年度は、地域住民への説明及び洞爺保育所利用者保護者を対象とした説明会を開催し、平成28年度は、洞爺保育所の新築に向けた基本設計を行った。					
事業費	事 務 事 業		決算額(千円)		特定財源(28年度)	
			27年度	28年度	国・道	その他
	洞爺保育所新築基本設計業務		—	1,836	—	—
評価	・平成27年度の地域住民への説明及び洞爺保育所利用者保護者を対象とした説明会時における住民意見なども基本設計へ反映することができた。					
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。			
課題と対応方向	・基本設計の内容等を、保護者や地域住民へ説明するなど、地域理解を深めながら実施設計に向けた取組を進める必要がある。 ・洞爺保育所の改築に合わせ、0歳児保育の実施など、サービスの拡充を予定しているが、保育士の確保が難しい。 ・保育所を統合することによって、集団による児童の成長とサービスの拡充を図るために、地域の理解を深める必要がある。					
評価委員の意見・提言	住民説明を行うなど、計画に沿って着実に事業を進めていただきたい。					

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ア 学校運営の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	《取組その1》 ・教育指導専門員の配置 ・コミュニティ・スクールの導入に向けた検討 ・小中乗り入れ(出前授業)の実施				
実施状況	・教育指導専門員 1 名を引き続き配置した。(平成27年度から配置) ・コミュニティ・スクールの導入に向け、洞爺地区の小中学校をモデル校として、教職員や保護者及び地域住民対象の研修会を実施した。 ・虻田中学校区及び洞爺中学校区でそれぞれに、小中乗り入れ(出前授業)を実施するとともに、調査研究を進めた。 虻中⇄温小4回 合唱指導、算数指導で虻中教員が TT 指導の T1T2 として実施。 虻中⇄虻小3回 ①虻小算数で虻中教員が TT 指導の T2 として実施。 ②虻小外国語で虻中教員が TT 指導の T2 として実施。 ③虻中理科で虻小教員が TT 指導の T2 として実施。 洞中⇄とうや小5回 ①とうや小の英語や特別活動(保健指導等)で単独あるいは TT 指導の T2 として実施。 ②夏季及び冬季休業中に、中学生が小学生に算数や国語を教えたり、小学生に対し TT 指導の T2 として洞中教員が指導。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28 年度)	
		27 年度	28 年度	国・道	その他
	教育指導専門員の配置	3,107	3,125	0	0
	コミュニティ・スクールの導入に向けた検討	0	0	0	0
	小中乗り入れ(出前授業)の実施	0	0	0	0
評価	・教育指導専門員の配置により、教育委員会として各学校へ専門的な指導、アドバイスができた。 ・コミュニティ・スクールの導入に向けた研修を実施し、年度末には規定を制定した。 ・小中乗り入れ(出前授業)は、中学校区ごとに実施され、中学校教員が小学校の児童の実態把握ができたことや、小学生の中学校進学への不安感の減少につながるなどの成果等も確認されるなど、調査研究が進められた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	・教育指導専門員は、引き続き配置を継続する。 ・コミュニティ・スクールについては、洞爺地区の小中学校においては、新年度の早い段階において本格実施をするとともに、虻田地区においては、導入に向けた研修会の実施などの準備を進める必要がある。 ・小中乗り入れ(出前授業)は、今後も積極的に取り組む必要がある。				
評価委員の意見・提言	小中乗り入れ(出前授業)は、非常に良い取組である。回数を増やすなど、引き続き取り組んでいただきたい。 コミュニティ・スクールについては、今後に期待します。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ア 学校運営の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	《取組その2》 ・IC(タブレット)活用授業 ・全国学力・学習状況調査 ・学習支援員の配置 ・独自学力検査の実施				
実施状況	・IC(タブレット)活用授業については、スタンダード10研修委員会で先進地視察や町内小中学校教員へのアンケート実施など実施した。 ・平成28年度全国学力・学習状況調査を、町内全小中学校を対象に実施した。 ・基礎学力向上を図るために、学習支援員3名を配置した。 ・町独自の「標準学力調査(全面改訂版)」を実施した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	IC(タブレット)活用授業	0	0	0	0
	全国学力・学習状況調査	0	0	0	0
	学習支援員の配置	6,230	6,547	0	0
	独自学力検査の実施	323	489	0	0
評価	・IC(タブレット)活用授業は、スタンダード10研修委員会の研究などを踏まえ、教育委員会として、一歩進めた調査研究をする方向性を見出した。 ・全国学力・学習状況調査への参加及び独自の学力調査の実施により、現状の傾向や課題を把握し、分析することができた。 ・町独自の学力向上対策のための支援員の配置により、授業の円滑化や学習姿勢、意欲の意識向上とともに、学力向上も図られつつある。 ・町独自の「標準学力調査(全面改訂版)」を実施により、児童生徒個々の教科指導が図られている。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	・IC(タブレット)活用授業については、引き続き調査研究を進める必要がある。 ・学力向上に向けた取組として、全国学力・学習状況調査における現状の傾向や課題の把握、分析をはじめ各学校の取り組みの充実を図るとともに、学習支援員の配置や町独自の「標準学力調査(全面改訂版)」の実施など、引き続き支援を行う必要がある。				
評価委員の意見・提言	今後とも引き続き IC(タブレット)活用授業についての調査研究や学力向上などの教育の充実に努めていただきたい。				

平成29年度(平成28年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	イ 特別支援教育の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	・介護員・支援員の配置 ・指導計画・教育支援計画の充実				
実施状況	・特別支援教育支援員5名、特別支援学級介護員8名を配置した。 ・特別な支援を要する児童生徒への個別の教育指導計画や個別の教育支援計画の策定を順次進めており、全ての対象児童生徒の整備に向けて指導している。 ・また、子どもたちの育ちと学びを支えるため、関係機関(医療、保健、福祉、教育、労働等)と連携しながら記入していく個別の支援ファイルとして「子ども・子育て支援ファイル(すくすく)」を130部作成した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	介護員・支援員の配置	21,432	19,909	0	0
	指導計画・教育支援計画の充実	0	118	0	0
	(支援ファイル「すくすく」作成費)				
評価	・支援員及び介護員の配置により、特別な支援を要する児童生徒への柔軟な対応や、授業自体の円滑化を図ることができた。 ・個別の教育支援計画については、町内小中学校共通の様式化に向けた検討を行うとともに、町独自の子どもたちの学びを支えるための「子ども・子育て支援ファイル(すくすく)」を作成し、発達や発育を総合的に捉えることができ、子どもの課題も整理され、安心して子育てができる環境の一環を整えることができた。				
達成度	A	説明	概ね予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	・当町での通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒の割合は、管内他市町に比して依然として高く、更に増加傾向にある現状を踏まえ、授業の円滑化に資するために、支援員・介護員は引き続き配置を継続する。また、平成28年度の実績報告書を検証し、各配置校における実施計画の遂行管理並びに実情に応じた適正配置を図っていく。 ・個別の教育支援計画の町内共通の様式の検討を継続するとともに、あらたに作成した「子ども・子育て支援ファイル(すくすく)」の活用を図り、より細やかな支援体制の充実や就学措置に向けた保護者への理解を求める取り組みを推進していく。				
評価委員の意見・提言	個別の支援ファイル「子ども・子育て支援ファイル(すくすく)」の作成を評価する。保護者の理解を深めながら、特別支援教育の充実に努めていただきたい、				

平成29年度(平成28年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ウ 特別教育等の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	・環境教育、防災教育の推進 ・道徳教育の充実				
実施状況	・環境教育については、温泉小学校の「緑はどうなった」事業など、各学校の状況により実施された。特に防災教育では、ジオパーク野外学習テキストを基に、洞爺湖有珠火山マイスターの協力による体験学習授業。また、平成26年度より町内中学校2年生を対象とした避難所開設体験学習が行われ、避難所生活の話、居住スペースづくり及び避難所運営を模擬体験するゲーム「HUG(ハグ)」など、様々な体験を行った。 ・道徳教育について、「心のノート」の活用や講師を招いての全校道徳の実施。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	環境教育、防災教育の推進(避難所開設体験学習会)	48	42	0	0
	道徳教育の充実	0	0	0	0
評価	・各学校の実情にあわせた防災教育・環境教育が行われている。また、避難所開設体験学習では、体験内容も実行委員会で検討を行い、内容の充実が図られてきている。 ・「心のノート」は全小中学校の全学級で活用されている。各学校とも「道徳推進教師」を中心に、積極的な教育を行っている。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	・防災教育・環境教育については、各学校の実情に応じて引き続き実施して行く。避難所開設体験学習については、中学2年生がこの学習を通して災害で避難所生活となった際に有効な事業であり、内容の充実を図りながら継続して実施していく。 ・道徳教育については、「道徳推進教師」を中心に、各学校の実情に応じて引き続き実施して行く。				
評価委員の意見・提言	避難所開設体験学習については、各校が連携し防災教育として有効である。今後とも防災教育の充実に努めていただきたい。 道徳教育については、児童生徒が自ら考え行動できるような取組に努めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	エ 児童生徒の健康及び安全の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	・体力向上の推進 ・フッ化物洗口事業 ・いじめ、問題行動、不登校等への対応 ・通学路の安全確保 ・各種安全教室等の開催				
実施状況	・平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査を町内全小中学校対象に実施した。 ・町内3小学校及び町内2中学校の全てでフッ化物洗口普及事業を実施した。 ・年2回の道教委のいじめに関するアンケート調査、学校独自のアンケート調査に加え、心理テスト(ハイパーQ-U)を実施した。また、必要に応じて、スクールカウンセラーの派遣を実施した。 ・町内各小学校から通学路マップ等の提供をもらい、交通安全対策の検討や(仮称)通学路交通安全推進会議の立ち上げの検討を行った。 ・地震や火災を想定した避難訓練、交通安全教室、薬物乱用防止教室などの実施。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	体力向上の推進	0	0	0	0
	フッ化物洗口事業の実施	210	250	0	0
	いじめ、問題行動、不登校等への対応	234	225	0	0
	通学路の安全確保	0	0	0	0
評価	各種安全教室等の開催	0	0	0	0
	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査への参加により、現状の傾向や課題を把握し、分析することができた。 ・保護者の理解を深め、関係機関と連携を図り、フッ化物洗口事業を円滑に実施できた。 ・アンケート調査や心理テストの結果を検証し、いじめに関する早期発見及び所要の対応を的確に実施することができた。また、必要に応じたスクールカウンセラーの派遣により、円滑な学校運営を図ることができた。 ・通学路の安全確保について、次年度につながる検討ができた。 ・各種安全教室の実施により、児童生徒の安全対応能力や防犯意識の向上が図られた。				
	達成度	A	説明	予定通り実施できた。	
	課題と対応方向	・体力向上のため、各学校の取組充実と併せ支援策を検討していく。 ・フッ化物洗口は、町内小中学校全てで実施をしており、今後も継続する。 ・いじめに関しては、当町独自のいじめ防止基本方針の策定を検討する。また、スクールカウンセラーの派遣については、悩みを抱える児童生徒への心に働きかけるメンタルケアが必要不可欠な現状にあることから、今後も継続する。 ・次年度に(仮称)通学路交通安全推進会議の立ち上げを行い、通学路の安全確保の取組を行う必要がある。 ・各種安全教室については、今後も各学校の実情に応じて継続する。			
		評価委員の意見・提言	今後とも事業の充実に努めていただきたい。		

平成29年度(平成28年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	オ 高校教育の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	・虻田高校への支援				
実施状況	・虻田高校生徒募集活動、部活動及びバレーボール部寮の維持経費等の補助を行った。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	虻田高校への支援	6,260	4,131	0	0
評価	・虻田高校支援は、特定部活の支援により入学者確保を図ってきたが、厳しい状況になってきている。今後も中学卒業者が減少傾向の中、一般入学者増の効果の検証は難しい。				
達成度	B	説明	達成度は比較的高い		
課題と対応方向	・虻田高校は、平成25年度から事務情報科1学級となった。また、平成26年度からは地域キャンパス校となり、入学者も減少傾向にあり厳しい情勢が続いている。今後も存続に向け支援を継続していく方向は変わらないが、支援のあり方を検討する必要がある。				
評価委員の意見・提言	学校状況に変化があることから、支援のあり方を早急に検討していただきたい。				

平成29年度(平成28年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	力 学校施設の整備				
取り組みの概要 (事務事業)	・学校施設の維持・管理の推進				
実施状況	・町内小中学校施設に係る工事及び修繕の実施。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	学校施設の維持・管理の推進	26,322	13,103	0	0
評価	・学校施設の維持・管理については、児童生徒の安全を優先し必要箇所の工事、修繕を行った。				
達成度	A	説明	当初予算計上分及び緊急を要する修繕は予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	・学校施設の維持・管理については、今後、各学校施設が老朽化してきており、修繕及び大規模改修など計画的に進めていく必要がある。また、今後は洞爺中学校体育館に設置している吊り天井の補強を併せて計画的に実施していく。				
評価委員の意見・提言	老朽化した施設が多いことから、計画を策定し、それに沿って進めていただきたい、				

平成29年度(平成28年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	キ 地域交流事業の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	・箱根町との中学生交流 ・洞爺湖子ども芸術文化フェスティバル				
実施状況	・町内3中学校の生徒6名と箱根町中学生6名が、町の代表として互いの町の親善訪問を実施。 ・今回、初めて町内小・中学校の全児童生徒の参加により、合唱等を発表した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	箱根町との中学生交流	846	858	0	0
	洞爺湖子ども芸術文化フェスティバルの実施	240	240	0	0
評価	・姉妹都市箱根町と定期的実施している事業は本事業以外なく、親善交流の大きな柱の1つとして有効な事業である。(訪問～48回目、来町～50回目) ・芸術文化フェスティバルについては23回目となった。今回は洞爺湖町合併10周年と洞爺湖温泉開湯100周年の節目の年として開催され、初めて全校の児童生徒500名以上が参加し、町民の方々から好評を博した。各学校の発表を通して他校の児童生徒の良さに気づき、音楽活動等への意欲向上に結びつけることができた。また、地域住民に学校での教育活動の成果の一端を発信することができた。				
達成度	A	説明	予定通り実施できた。		
課題と対応方向	・姉妹都市箱根町との交流については、内容等を検討しながら引き続き実施する。 ・芸術文化フェスティバルについては、今後、全校児童生徒の参加の継続や多くの地域住民に見ていただくため、土日開催などの検討が必要である。				
評価委員の意見・提言	芸術文化フェスティバルは、今回、初めて町内小・中学校の全児童生徒の参加により開催され、素晴らしかった。今後においても今回同様の取組を進めていただきたい。				

平成29年度(平成28年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ク 進学支援の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	・育英資金貸付及び給付事業				
実施状況	・返済を要しない入学時給付金の給付。 【入学時給付金】 給付金額 高校・中等教育学校・高等専門学校5万円、専修学校・大学10万円 28年度給付実績～高校生5名、専門学校2名、大学生1名) ・勉学意欲のある学生への学資金等貸付。 【学資金】 貸付基準額(月額以下の金額以内) 高校生1万円、私立高校1万円、高等専門学校1,3万円 専修学校・大学1,8万円 28年度貸付実績～高校生1名、私立高校1名、高等専門学校0名専修学校・大学1名 【入学時一時金】 貸付基準額(以下の金額以内) 高校生20万円、私立高校30万円、高等専門学校30万円、専修学校・大学50万円 28年度貸付実績～高校生1名、私立高校3名、高等専門学校0名、専修学校・大学1名				
事業費	事務事業	貸付額等(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	育英資金の基金貸付及び給付事業	1,104	2,606	0	2,606
評価	・育英資金基金を活用して勉学意欲がある学生・保護者への経済的負担を軽減することができた。				
達成度	A	説明	予定通り実施できた。		
課題と対応方向	・学資金については、ふるさと納税の指定寄附により資金の確保はできている。貸付の利用は少ないが、さらに有効に運営していく。				
評価委員の意見・提言	制度のPRを図りながら、適切な運用に努めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	ア 乳幼児事業の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	・ブックスタート事業(生後7カ月の乳幼児健診時に絵本を贈呈) ・子育てメソッド形成事業(家庭教育に関する情報の提供) ※メソッド＝目的を達成するための方法 ・子育てサークル等の活動支援(子育てセミナー等の開催により親同士の情報交換の場の提供)				
実施状況	・生後7ヶ月の乳児健診を利用し、本を通して親子のふれあいと心や言葉の発達を促し、子育てに対する意識を育てるブックスタート事業(本の贈呈)を実施(参加37名) ・小学校新入学児童説明会等を利用して、保護者に対し家庭における余暇の過ごし方等の情報提供や資料の配布により、親子のふれあいの時間を考える機会の提供 ・関係機関との連携による子育てセミナーの開催(4回ー32名)				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(28年度)
			27年度	28年度	国・道 その他
	ブックスタート事業		26	26	0 0
	子育てメソッド形成事業		0	0	0 0
	子育てセミナー		0	0	0 0
評価	・ブックスタートは関係機関との連携も含めて予定どおり実施することができた。 ・子育てメソッド事業については、保護者に対し、家庭でテレビやゲームのスイッチを切って読書や談話など親子のふれあいの時間の大切さなどの周知により、家庭教育の推進が図られた。 ・子育て中の母親同士の情報交換や学習の機会を提供することができた。				
達成度	A	説明	予定どおりの事業が実施できた。		
課題と対応方向	・ブックスタート事業における本の贈呈については、本を通じて親子関係や新生児教育に役立てていただけるよう今後も継続して親育に取組みます。また、本の贈呈を通して読書の大切さについての啓発を図り、幼少期から本に親しむ機会づくりに努めます。 ・子育てメソッド形成事業(家庭教育に関する情報の提供)は、親子のふれあいの時間を促し、日常生活における過ごし方を見直す機会づくりとして今後も取組めます。 ・子育て中の母親同士の交流の場を提供し、子育てに対する情報発信などに努めます。				
評価委員の意見・提言	乳幼児期の事業については、順調に実施をされている。今後も家庭教育の推進に向けた取り組みを継続していただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課			
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進					
主要施策	イ 少年事業の充実					
取り組みの概要 (事務事業)	《取組その1》 ・洞爺湖GENKIDS ・ふるさとふれあいフレンドリーツアー(友好都市「三豊市」の児童との相互訪問交流) ・放課後児童健全育成事業(町内3箇所において学童保育を実施) ・学校支援本部事業 ・少年の主張大会					
実施状況	・洞爺湖GENKIDSは小学校4年生～中学3年生を対象に登録会員25名で5月から3月まで10回体験活動事業等を開催し、世代間交流事業の実施も図れた。 ・ふるさとふれあいフレンドリーツアーの実施(三豊市からの来町～15名、三豊市への訪問～11名) ・放課後児童健全育成事業は、風っ子33名、洞爺湖クラブ13名、とうや児童クラブ18名が利用。さらに、障がい児(学童まで自分で通える場合に限る)の受け入れを3箇所を実施 ・学校の支援要請に応える学習支援ボランティアを募り、地域全体で支援をおこなう体制が図られた。					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(28年度)	
			27年度	28年度	国・道	その他
	洞爺湖GENKIDS		52	36	0	0
	少年の主張大会		13	14	0	0
	ふるさとふれあいフレンドリーツアー		1,564	1,332	0	495
	放課後児童健全育成事業		14,177	14,140	8,148	2,132
	学校支援本部事業		26	23	0	0
評価	・洞爺湖GENKIDSは、様々な体験メニューの実施と共によりいきいき学園との交流事業など世代間交流の実施にも繋げることができた。 ・ふるさとふれあいフレンドリーツアーについては、町内3小学校を対象とした事業の定着が図られ、友好関係をより一層深めることができた。 ・放課後児童健全育成事業については、予定どおり実施することができた。 ・学校支援ボランティア会議の開催により、登録ボランティアからの意見要望を聞くなど情報交換を行う機会づくりが図られた。					
達成度	A	説明	予定どおり事業を実施することができた。			
課題と対応方向	・洞爺湖ゲンキッズの活動メニューに他の事業とタイアップし、世代間交流の機会などコミュニケーション力の向上などにつながる取組が図れたことから、事業の継続に努めます。 ・少年の主張大会は洞爺湖温泉中学校の閉校に伴い、洞爺中、虻田中に参加生徒の増員を協力を求めます。 ・フレンドリーツアーの参加児童について町内3小学校対象が定着できた。今後も事業の充実を図ります。 ・放課後児童健全育成事業については、今までどおり受け入れ態勢を継続し開設時間の検討を図ります。 ・学校支援本部事業に携わる支援ボランティアの確保と活動機会の拡大に努めます。					
評価委員の意見・提言	さまざまな活動を通して少年教育の事業実施が図られている。少年の主張大会においては、今後も参加生徒数の増員を図るなど、事業の充実に取り組んでいただきたい。					

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課	
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進			
主要施策	イ 少年事業の充実			
取り組みの概要(事務事業)	《取組その2》 ・地域未来塾			
実施状況	【会場】 ①②あぶた読書の家 ③④洞爺総合センター ⑤母と子の館 ⑥洞爺中学校 ⑦洞爺湖町役場 【常設・特設】 ①常設 75回 ②常設 18回 ③常設 10回 ④常設 9回 ⑤特設 7月17日 ⑥特設8月9～10日 ⑥特設1月11～12日 【参加延べ人数】 ①虻小 732人 ②虻中 151人 ③とう小 102人 ④洞中 25人 ⑤小学生 27人 ⑥中学3年生 11人 ⑥中学3年生 17人			
事業費	事務事業		決算額(千円)	
			27年度	28年度
	地域未来塾事業		74	2,452
評価	・学校、地域、行政等が連携し、平成27年度から実施した地域未来塾により学力向上に向けた事業実施が図られている。28年度は補助事業によりICT器機の整備充実を図り、実施回数・参加人数ともに利用実績の向上を図れた。(平成27年度延べ173人、平成28年度延べ1,065人)			
達成度	A	説明	予定どおり事業を実施することができた。	
課題と対応方向	・地域未来塾事業は、学校や地域等との連携により学力向上に繋がる事業として好評を博しており、今後は常設開催数も含めて事業の充実を図ります。 ・今後の事業の開催については、地域の支援サポーターとの連携・協力により内容の充実に向け、参加人数の増に伴う虻田地区実施会場を変更して学習環境を整備します。また、洞爺地区の実施回数の増に向けて取り組みます。			
評価委員の意見・提言	地域未来塾は、参加児童・生徒数が大幅に増加しており、成果を上げている。 今後も学習習慣の定着に向けた事業として継続して実施していただきたい。			

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	ウ 青年・成人教育の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	・各種学習機会の充実 ・リーダー養成事業の検討 ・春の自然観察会の実施				
実施状況	・成人の集い 新成人となる方々の前途を祝し、成人としての自覚を促す成人の集いの実施(出席者 69名) ・春の観察会 伊達市の自然団体によるガイド協力などにより月浦森林公園において気軽に誰もが参加できる自然観察会を実施した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	成人の集い	111	113	0	0
	いきいき教室「春の観察会」	0	0	0	0
評価	・式典は新成人69名の他、来賓や父兄を含む多くの方々の参加をいただきました。式典終了後の祝賀会では学校ごとに学生時代の懐かしい話で溢れ、また、アトラクションでは地元の名産品が当たる抽選会を行い、会場を盛り上げました。 ・春の観察会は41名参加。伊達市の自然団体による解説もあり、参加者も満足された。 ・青年リーダーなど人材育成のための事業の検討会議など基盤づくりに取り組めた。				
達成度	A	説明	おおむね予定どおりの事業を実施できた。		
課題と対応方向	青年リーダーの養成研修については、北海道が実施していた研修事業が終了してしまったため、地域社会を担う人材を育成していくための取組を検討していくため関係部署による庁内検討会議を設置。また、就労している青年層の意見を聴取するために観光、商工、農業など各分野からさまざまな意見を伺い地域活性化につながる「人づくり人材育成」研修事業の実施に向けた基盤づくりを行った。来年度に向けて制度化を図る。 ・春の観察会は自然団体の協力の下、今後も継続して参加者の増に努めます。				
評価委員の意見・提言	これまで課題としていた人材育成事業の基盤づくりが図られた。今後は事業の有効活用について取り組んでいただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	エ 女性事業の充実 オ 男女共同参画事業の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	・リーダー養成研修の充実 ・女性団体の活動支援 ・男女を問わず身近なテーマを掲げ、地域づくりや活動促進を考える講演会を開催				
実施状況	・女性団体の活動支援をするための補助金の支出(150千円) ・胆振女性リーダー養成研修への派遣 1名 ・11月1日防災研修ホールにて「生きることは学ぶこと」を開催した(参加46名)				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	女性団体の活動支援	150	150	0	0
	リーダー養成研修	52	47	0	0
	きずな学級の実施	0	19	0	0
評価	・女性団体(ウイメンズネットワーク洞爺湖)への補助金を支出することにより団体が自ら考える自主的な活動の支援を行うことができた。また、胆振女性リーダー養成研修への派遣により、今後の女性団体活動の中核を担う女性リーダーの養成を図ることができた。 ・講演会は性別や年齢などを問わず参加を呼びかけ、参加者から日常生活で役立つ情報などの内容に好評をいただくとともに男女共同(平等)参画の醸成に繋がった。				
達成度	A	説明	予定どおり事業を実施できた。		
課題と対応方向	・女性団体の活動支援としての補助金やリーダー養成研修への派遣は、今後も継続する必要がある。 ・研修の効果を高めるため感想文の提出や発表の機会などについて継続していく必要がある。 ・女性団体の組織構成において会員の高齢化となっている状況であり、後継者の養成が必要である。 ・きずな学級は今後とも男性、女性が一緒に学べる事業の展開が図られるよう身近で関心の高いテーマを選定していく必要がある。また、アンケートなどを利用して企画内容の充実に努めます。				
評価委員の意見・提言	女性団体に対する活動支援と共に、組織の後継者育成に向けた新たな取り組みなどについても執り進めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	IV 社会教育の推進				
主要施策	力 高齢者事業の充実				
取り組みの概要(事務事業)	・高齢者事業等の実施(いきいき学園の取組)				
実施状況	・いきいき学園 6月～3月の10回開催。登録会員:40名 第1回始業式、少年の主張大会観覧 第2回町外視察研修(小樽市) 第3回施設見学・収穫体験 第4回 町外視察研修(札幌市) 第5回年賀状づくり体験 第6回マイ箸づくり 第7回そば打ち体験 第8回マジックショー公演 第9回ケアネットワーク講習会 第10回シルバー料理教室 参加延べ人数 268名				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(28年度)
			27年度	28年度	国・道 その他
	いきいき学園		177	243	0 200
評価	・地域指導者や学習資源を活用しながら多様な学習機会をおおむね確保できたと思われる。 今後も楽しく学習や体験ができる企画づくりで、子どもたちと一緒に交流できる事業も含めて、広く参加を呼び掛けます。				
達成度	A	説明	予定どおり事業を実施できた。		
課題と対応方向	いきいき学園の事業企画内容は好評であるが、新しい会員や男性の参加につながるような広報活動が必要である。				
評価委員の意見・提言	今後も幅広い学習や体験活動機会の提供と共に、異世代との交流などの取り組みを継続していただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興				
主要施策	ア 芸術文化活動の充実				
取り組みの概要(事務事業)	・各種発表会等の開催・支援 ・芸術鑑賞会の機会の提供				
実施状況	・総合文化祭の実施 ステージ部門10/22～23 あぶたふれ合いセンター (洞爺湖町文化団体協議会) 展示部門 10/29～10/31 あぶた体育館 ・洞爺湖町民文化祭の実施 展示部門 11/3～5 洞爺総合センター (とうや文化協会) 芸能部門 11/23 // ・ふれ合う心の文化広場 3/13 洞爺湖文化センター ※主催:洞爺湖町文化団体協議会 ・各種団体等との連携 町民ロビー展(開催回数 11回) 劇団札幌座との連携による演劇の実施 ・芸術鑑賞の機会の提供 心に夢の灯をともし芸術鑑賞会「藤井黎元洞爺湖公演」 220名 ・美術見学旅行は、美術館や博物館を巡る鑑賞の機会を提供(9/24 49名)				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(28年度)
			27年度	28年度	国・道 その他
	洞爺湖町文化団体協議会活動運営事業		300	300	0 0
	とうや文化協会活動運営事業		100	100	0 0
		美術見学旅行	0	128	0 0
評価	・総合文化祭及び町民文化祭ともに、町教委との共催事業として、相互協力のもとに開催することができた。 ・町民ロビー展は、町内各団体や個人による作品発表の場となっている。 ・芸術鑑賞会では町内外からの220名の方々に来場いただいた。 ・美術見学旅行は、北海道博物館への見学を実施し、49名の参加をいただいた。				
達成度	A	説明	予定どおり事業を実施できた。		
課題と対応方向	・文化祭開催にあたっては、回覧などのPR、準備等に関しては、行政側も積極的に協力しており、今後も芸術文化の推進と共に発表の場の提供をしていきます。 ・町民ロビー展等、各団体個人の発表の場を継続して提供し、芸術文化振興に努める。 ・今後も実行委員会組織体制の充実を図り、町民が本物の芸術文化を鑑賞できる機会を提供すると共に来場者数の増員を目指した取り組みを図ります。 ・美術見学会は、芸術鑑賞の機会を提供するため継続して取組めます。				
評価委員の意見・提言	各種発表の機会や町民のニーズに応じた芸術鑑賞の開催など、今後も芸術文化の振興に向けて、継続した取り組みを行っていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興				
主要施策	イ 入江・高砂貝塚保存整備・運営の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	・高砂貝塚の保存整備事業 ・縄文まつり等企画事業 ・史跡めぐりウォークラリー				
実施状況	○高砂貝塚保存整備事業 ・高砂貝塚環境整備等経費 48,168千円 ・高砂川水路改修設計業務委託 605千円 ・入江貝塚トイレ改修実施設計業務委託 842千円 ○ 縄文まつり等企画事業 第8回縄文まつりの開催(入江貝塚公園 7/18 260名) 縄文ロビー講座の実施(入江・高砂貝塚館 8回 73名) 文化財防火デーの実施(荒天のため中止) ○史跡めぐりウォークラリー(洞爺地区)の実施 洞爺地区34名				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	高砂貝塚保存整備事業	31,762	50,421	36,687	12
	縄文まつり等企画事業	59	75	0	0
	文化財防火デー	8	0	0	0
	史跡めぐりウォークラリー	0	0	0	
評価	・高砂貝塚保存整備事業は平成27年度から6か年計画で高砂貝塚を含む周辺の整備に向けて実施。今後は専門家らで構成する整備委員会の意見を聞きながら整備を進めてまいります。 ・縄文まつりは地域自治会や学校等と連携し、縄文を知り、学ぶ機会づくりが図られた。 ・文化財防火デーは悪天候により安全性の確保が困難なため中止とした。 ・史跡めぐりウォークラリーは町内文化財を巡り、郷土の理解と文化の学習、健康増進が図れた。				
達成度	A	説明	予定どおり事業の実施ができた。		
課題と対応方向	・修学旅行などで学芸員による解説を行い、より理解を深めるように努めます。 ・史跡入江・高砂貝塚への関心、理解をより深めていただく取組に努めます。 ・今後も貴重な文化財の継承と理解を深めていく機会の提供に努めます。 ・史跡めぐり事業ではクイズ形式で楽しく郷土の文化を工夫するなど文化財に親しみながら学習できる取り組みを行います。				
評価委員の意見・提言	町内の貴重な遺跡や文化財を学ぶ機会の提供や施設への来館誘導に努め、今後も縄文に対する理解を深められるような事業を継続して取り組んでいただきたい。 また、外国人観光客が増えているところから、それぞれの施設における外国語表記のサインなどについて整備充実を図っていただきたい。				

平成29年度(平成28年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興				
主要施策	ウ 文化財施設の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	・洞爺地区郷土資料室の移転(洞爺公民館からふるさと交流センターへ) ・虻田郷土資料館の特別展、夏休み自由研究支援事業の実施				
実施状況	・洞爺地区における郷土資料については、旧公民館において収蔵保管しておりましたが、旧診療所を改修し、「ふるさと交流センター」として高齢者サロンと共に洞爺地区郷土資料室として活用を図るため、全ての郷土資料を移設し、開拓の歴史や地域の発展に使われてきた貴重な用具や資料を後世に伝承する空間として利用を図ります。 ・虻田郷土資料館は特別展などの開催で利用促進を図った。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	虻田郷土資料館特別展	0	0	0	0
	洞爺郷土資料室開設	0	0	0	0
評価	・洞爺地区の郷土資料は、文化財収蔵庫の保管分を含めて産業(農業、林業、商業など)や生活用具など1,958点もの資料が収集されており、施設への移転に併せて、地域の精通者に展示における意見を伺いながら執り進め、施設1階の一部と2階部分に収めて、地域の誰もが郷土を知るための詳細な解説板や解説資料冊子などを配して、気軽に見学し、さらに歴史を学べる場として提供することができた。				
達成度	A	説明	予定どおりの事業が実施できた。		
課題と対応方向	・スペースを有効に活用しながら収蔵展示が図られた。今後は、展示資料の展示替えや資料の収集に努めてまいります。 ・今後とも適切な施設の維持管理に努め、利用促進を図ります。				
評価委員の意見・提言	今後も施設の充実を図り、郷土の歴史を学ぶ機会を提供するなど施設や資料内容の周知を含めて取り組んでいただきたい。				

平成29年度(平成28年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興				
主要施策	エ その他、施設の整備				
取り組みの概要 (事務事業)	・北海道立洞爺少年自然の家の跡地活用の検討				
実施状況	・北海道立洞爺少年自然の家は昭和48年の開館以来、42年の永きにわたり、集団生活や野外活動、生涯スポーツの普及などを通して、多くの方々に利用された施設であります。老朽化等の理由から平成26年3月31日をもって廃止となりました。その後、町では道との協議を継続して行い、その結果として施設においては道で解体、跡地を町が活用することで解体後に町側へ譲渡することとなり、跡地を「えぼし岩公園」として利用を図っている。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	北海道立洞爺少年自然の家跡地活用	9,755	0	0	0
評価	・施設の廃止に伴い、住民懇談会や道との協議を進め、施設は解体、跡地は洞爺湖町が利活用を図ることで譲渡され、公園整備が図られた。 ・GENKIDSによる、えぼし岩登山を毒蛾被害を避けるよう10月に計画していたが、悪天候により事業中止となった。				
達成度	B	説明	跡地の整備、管理等が図られたが十分な利活用までに至っていない。		
課題と対応方向	・平成28年度から、えぼし岩公園として環境整備が図られている。現状においては、園内にトイレや給水設備が未整備であることから、事業の利用が制限されている。今後、施設を利用する上で必要な設備などの設置について要望を行っていく。				
評価委員の意見・提言	事業を実施するために必要な設備等の整備を図るなど課題の解決に向けて取り組んでいただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	IV 芸術文化の振興				
主要施策	オ 読書活動の振興				
取り組みの概要 (事務事業)	・読書環境・活動の充実				
実施状況	・あぶた読書の家での読み聞かせ(月1回)及び読書週間での読み聞かせイベント実施 ・洞爺総合センター図書室まつりの開催(年1回) ・読書感想画、読書紹介文募集事業(10名,10作品) ・図書システム導入に伴う蔵書検索、貸出利用の促進、電子端末器活用など施設間整備充実。				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(28年度)
			27年度	28年度	国・道 その他
	読み聞かせ		15	15	0 0
	図書室まつり		10	10	0 0
	読書の家維持管理事業		12,468	6,150	0 0
読書感想画・紹介文募集事業		11	14	0 0	
評価	・読み聞かせサークルの活動及び図書室まつりについては子どもが読書に親しみ、本を読むきっかけづくりができた。 ・読書感想画、読書紹介文募集事業を洞爺湖ロータリークラブとの共催で事業の継続性が図られた。 ・図書システム導入に伴い、施設間の蔵書管理や整備が充実し、読書活動の推進が図られた。				
達成度	A	説明	予定どおり事業実施ができた。		
課題と対応方向	・読書に親しむ機会づくりを推進するため、読み聞かせ等の事業を今後も実施していく必要がある。 ・北海道立図書館と連携した読書環境の改善や学校への図書貸出など利用促進を図ります。 ・図書システム導入に伴い、貸出方法は簡素化されたが、管理上、個人カード発行が引き続き必要となるため周知の徹底など整備内容の把握に努めます。 ・町内図書施設の蔵書の充実を図ります。				
評価委員の意見・提言	読書活動の推進を図り、本に親しむ取組を継続して実施していただきたい。 また、町内の図書施設における利用状況などを分析して活用の向上を図り、さらには施設のあり方など見直しについても検討していただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅴ スポーツ活動の推進				
主要施策	ア 体育振興事業の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	・人材育成の充実 ・体育振興事業の充実				
実施状況	・スポーツの普及、推進を図るため共催、後援事業を含めて各種スポーツ大会や教室の開催において、また、スポーツ指導者向け講習会の開催など人材育成に取り組み、関係団体等との連携も図れた。 ・体育振興事業については町民が健康的な生活を送るため誰でも気軽に楽しむことができる生涯スポーツのニーズに応え、出前スポーツの実施やレークスポーツなど地域の特性を活かした体育振興が図れた。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	スポーツ大会・教室の開催及び支援	811	1,150	0	0
評価	・スポーツ推進委員等の協力をえて、さまざまな種目を取り入れた各種教室の開催や各種大会などの支援が図られた。また、バブルサッカーやユニカールなど新たなスポーツ種目を取入れ実施した。				
達成度	A	説明	予定どおり事業を実施できた。		
課題と対応方向	・スポーツ推進委員等の協力を得て各種教室などを実施するとともに、各種スポーツ団体等と連携を図りながら地域住民の健康の保持増進を図るとともに、継続的なスポーツの振興に努めていく必要がある。 ・スポーツ指導者の育成を今後も図っていく必要がある。 ・体育施設や学校体育館の解放事業を活用した支援を継続し、スポーツ団体の自主的な活動をサポートしていく。				
評価委員の意見・提言	スポーツ指導者の育成やスポーツ団体における人材育成の支援を図り、今後の活動に支障が無いよう取組んでいただきたい。各種事業については町民の健康の維持、増進にむけて継続して取り組んでいただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	VI 社会教育施設及び社会体育施設の充実等				
主要施策	ア 社会教育施設及び社会体育施設の整備				
取り組みの概要 (事務事業)	・施設の維持管理				
実施状況	・ふるさと交流センター(旧診療所)改修後の郷土資料移転後に洞爺公民館の解体実施。 ・あぶた体育館一部修繕(煙突灰だし口、じん傘の設置)ーアスベスト含有資材対策				
事業費		決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	洞爺公民館解体	0	8,424	2,533	5500
	あぶた体育館修繕	0		0	0
評価	・洞爺公民館内に保管されていた洞爺地区の郷土資料については、旧診療所の改修終了後にすべての資料を移転し、ふるさと交流センターの1階の一部及び2階のスペースを洞爺地区郷土資料室として活用。施設は平成28年5月10日にオープンし、今後は定期的な展示替えなどを実施していく。 ・あぶた体育館の煙突内部にアスベスト材の含有が調査で明らかになり、その緊急的な対応として煙突灰だし口の修繕、煙突上部の雨よけとして、じん傘の取り付けを実施した。				
達成度	A	説明	予定どおり実施された。		
課題と対応方向	あぶた体育館は緊急的な対応を図ったが、今後は改修に向けた対応などの協議を行う。				
評価委員の意見・提言	今後とも施設の環境整備や利活用の促進に向けた取り組みを図られたい。				

事務事業評価シート

		担当課	学校給食センター		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ケ 学校給食(施設等)の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	・給食センターの管理・運営 ・食育活動の充実 ・給食配送車等の更新				
実施状況	・児童生徒の心身の健全な発達に資するため、適切な栄養摂取による健康保持増進と体位の向上を目指し、安心・安全で栄養バランスのとれた給食の提供、食に関する指導の充実及び安全管理と衛生管理の徹底。 ・食物アレルギー症状を持つ児童生徒に対する給食(除去食及び代替飲料)の提供。 ・地場産(とうや湖農協より仕入れ)で作られた道産小麦を使用した麺を学校給食に提供。 ・給食費収納業務の徹底。(金融機関口座引落の推進) ・虻田給食センターにおいては、洞爺湖温泉中学校の閉校に伴い、老朽化した2台の配送車を1台体制として更新し、安全・安心な給食配送を行った。(新給食配送車購入金額6,873,338円) ・文部科学省からの通知を受けて、学校施設等における煙突用断熱材の石綿含有保温材等の使用状況の確認調査を実施し、虻田給食センターにおいて、設計図書に明示はないものの、当該施設の竣工年(昭和59年)からすると、石綿含有煙突用断熱材が使用されていると思われるとの結果であった。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(28年度)	
		27年度	28年度	国・道	その他
	給食センターの管理運営費	46,622	43,503	0	0
	食育活動の充実	0	0	0	0
	給食車更新購入に伴う利子償還金	0	4	0	0
評価	・学校給食の提供は(1日約645食:年間122,329食)、調理後2時間以内に喫食できるように配送時間を設定し、6施設への配送業務を行っている。また、食物アレルギーを持つ児童生徒の原因食物も多様化しており、学校及び保護者間等との連携を密にし、情報共有しながら対応している。アレルギー食の対応として、たまごや魚介類等のアレルギー反応が出る食材に対する除去食(4名)や牛乳に代わる麦茶等(4名)の代替飲食と代替食(1名)等を行っている。 ・地場産(とうや湖農協より仕入れ)で作られた道産小麦を使用した麺を学校給食に提供。児童生徒及び教職員等からもコシも良く美味しいと好評であった。今後も道産小麦の継続使用を図る。 ・職員及び調理員の衛生管理意識向上により、連続「HACCP」認定を取得出来、事故無く給食提供業務を行えた。[HACCP]施設衛生管理評価B ・給食費納入率100%を達成出来た。 - 納入額: 虻田給食センター 25,203,795円・洞爺給食センター 6,496,870円 ・虻田給食センター配送車を2台から1台に減車し、維持管理費の節減に繋がった。 ・虻田給食センターの煙突について、改修方法等を検討し次年度の工事に向けた取組を進めた。				
達成度	A	説明	ほぼ予定通りの事業を行うことができた。		
課題と対応方向	・虻田給食センター及び洞爺給食センターの施設維持管理及び厨房機器類整備更新を図る。 ・学校給食提供は、衛生管理の徹底に努めると共に食に対する知識を深め、安全で美味しい給食を提供できるよう今後も職員の意識向上を図る。 ・地場産物の更なる利用拡大に向けて、今後ともとうや湖農協や地場産品利用協同組合等との連携を図る。 ・食物アレルギーを持つ児童生徒が増えていることから、今後も保護者及び各小中学校と連携し、情報共有しながらアレルギー食の対応を図る。 ・今後、少子化と共に年々児童生徒数も減少傾向にあることから、今後の給食センターのあり方や方向性について検討協議する。 ・給食費については、一部食材の価格高騰はあるが、二町との物資共同購入等などの自助努力をしながら、これまでの給食費並びに給食内容を継続維持できるよう努める。 ・虻田給食センターの煙突改修を次年度に実施し、安全・安心の確保を図ることとした。				
評価委員の意見・提言	食物アレルギーを有する児童生徒は少ないが、事故が起こればよう保護者等、関係者と連絡を密にして取組んでいただきたい。また、町村合併以来、連続の給食費収納率100%は素晴らしい。今後とも、事業の充実に努めていただきたい。				

